

## 2-5 ウエペケレ「アウナラペ イキモルラ」解説

語り手：貝澤とうるしの

解説：萱野茂

萱野：この場合は、a=unarpe [私のおばさん]

貝澤：うん。a=saha sekor hawean=an kor an=an ayne a=unarpe i=kimorura [姉さんと言っているうちにおばさんに山に連れられた] したんだと。

萱野：a=unarpe i=kimorura [おばさんに山に連れられた] .

貝澤：sirowri [穴掘り] 三日、四日かかったんだっていうもの。おっかない。

萱野：そして、それはあのう、嫁に行ったカムイは、何カムイだべ。

貝澤：嫁に行ったカムイって

萱野：ueinkar [千里眼] した

貝澤：ueinkar [千里眼] したんだと。kamuy erampokiwen [神が気の毒に思  
って]。

萱野：ああそうか。

貝澤：ueinkar wa siyeye moto ka ye ora nep ka ekatkikus pe oka kor eypirma  
sekor [千里眼で見て、病気の原因も言っ、それから何かに憑かれています  
とこっそり教えた] だと。newaanpe po kusu a=pirkakor [それでな  
おさらい暮らしを] したんだって。

萱野：私は一人の親のない娘でありました。私を育ててくれておる人は……、お  
る人のことを時には「おばさん」と言い、時には「姉」と言いながら、育  
てられ一人前になって、もうお嫁に行ってもいいぐらいの年頃になった、  
と。

私には妹が一人おって、その妹は私とやや同じくらいの年ではあるけれども、ほんとうの母も父も同じ兄弟ではないらしく、同じに生活をしておっても私のお婆は、何というか特別扱いと言うか、私のことをあまりよくは扱ってはくれなかった。それにしてもどうやら生活をして、女三人で暮らしておった、と。

ある日のこと、何日も何日も私のお婆は、山へ行っては疲れたような顔をして帰ってくる。それが何日か続いたある日、「今日は山へ一緒に行きましょう」と、私を誘うので、山へずっと、奥山の方へ一緒に行った。そうすると深い深い穴を掘ってある。その掘ってある穴も、はっきり姉（お婆）が掘ったものだということも分かる。その穴の側（そば）へ来たら、「あれ、あれ、あの穴の底の方で何かあるぞ、あれ見れ、見れ」、見なさいというふうに私に言うので、何かこれ、恐ろしいことでも起きるんじゃないかと、不吉な予感はずいぶんあったけれども、姉の言うこと反対も出来ないで、その穴のへりへ行って、こう中を覗き込んだ。

そうすると、姉は私の後ろからギョーンとその穴の中へ突き落として、ゴロゴロ転がって穴の底へ私は落ちてしまった。山へ出かける時に一匹の犬が、養っておった犬が何か、アイヌ語では **niwniwse** と言うんですけども、鳴きながら私の後をついて来たのもおったのに、私が穴の底へ突き落とされたのを見ると、その犬は本当に上で悲しそうに鳴いておった。

それを尻目に一緒に来た姉は、私を落とし込んだ穴の上に柴をいっぱい運んで、そして下からでは、とてもどうすることも出来ないように這い上がることも出来ないように蓋をしちまった。そうして、さっさと帰って行ってしまったんですね、そのうちにその一緒に来た犬が、やっぱりさっきと同じように鳴きながら柴を一本銜えて運び、二本銜えて運びというふうにしておった。それでも私を助け出すことは出来ないで、何日かぐらい過ぎしておった。

ある日のこと、一人の男の人が何処からともやって来て、上であったその柴を取り除いて、長い縄を投げおろして寄こした。それに私が掴まって、上がろうとすると、一緒におった犬もその縄を銜えて、私を引き上げるのに助けるようにして、その穴から引き上げられた。

そしたら、その男はすぐに私を小脇に抱えるようにして、まるつきり空を飛ぶような速さで、ずっとずっとどっか遠いところへ私を連れてきてくれた。よく話を、まあ、連れて来られたところの家を見ると、その家は立派な家でそこへ行ったら、おじいさんとお婆あさんがいるんだなあ。

貝澤：うん、いる、娘と。

萱野：おじいさん夫婦と娘のおる一軒の家（うち）へ連れて来られて、そこのおじいさんやおばあさんの言うのには、「実はあなたをうちのここへ、今お前を助けた男のところへお嫁に貰うと思っておったのに、あなたと一緒に育てられている、悪い方の娘をあなたにお嫁に寄こしたいと言うんで、所謂あなたを育てた継母（ままはは）は、穴の底へあなたを突き落とす。それを見ておった犬は『うちの者が穴の下へ突き落とされたよ』というふうに知らせに来てくれたので、うちの息子がお前を助け出して来たのだよ。ですから、これからあなたは、

貝澤：昔は、wenpe XXX ene iki pa rokoka [悪い XXX がそんなことをしたんだなあ]

萱野：お嫁になって、楽しく暮らして下さい」。そう言われたので、私は本当に嬉し泣きに泣き、泣いてそこで何日か過ごしたある日のこと、外で物音をするので、よく見ると、私を育ててくれたあの女が、あまりよくない方の娘を着飾って連れて来て、お嫁にというふうに来たら、いえの者が皆で大勢で叱りつけたり怒ったりしたので、ほうほうの体で逃げ帰った、と。そのあとで私は、何不自由なく楽しく暮らしておりました。穴へ落ちた私を犬が助けてくれたので、その犬をも大切に生活をしております、というこれは uepeker [散文説話] です。